

三保漂着クラゲノミ亜目

アワセトガリズキン

Oxycephalus piscator

横山謙二

アワセトガリズキンウミノミ *Oxycephalus piscator* は前会報（会報93号P9-10）でご紹介したトガリズキンウミノミ科アワセトガリズキン属に属します。本種は、小型形態(10-15 mm)のものと大型形態のものの性的二形性が見られるそうです。

本種は、オオトガリズキンウミノミ(会報93号P1)と似ていますが、大きな違いは腹節側板の歯状突起です。オオトガリズキンウミノミは腹節側板下後角に中央と下後角の2ヶ所ですが、本種は、下後角のみ歯状突起が見られます。この歯状突起は、同属の *O. latirostris* と *O. longipes* にはありません。また第1、2胸肢鋏脚も明瞭な違いがあります(図5)。

本種は、オオトガリズキンと同様に世界中の熱帯海域に分布が見られ、日本では相模湾 2004 年 6 月、伊豆大島東沖 2006 年 3 月の採集記録があります(森ほか, 2010)。2025-2026 年の三保真崎海岸の漂着物調査では、2~4 月にかけて記録していますが、3 個体しか確認できていません。



図1. アワセトガリズキンウミノミ♀



図2. 腹節側板下後角の歯状突起(矢印)



図3. アワセトガリズキンウミノミ♂

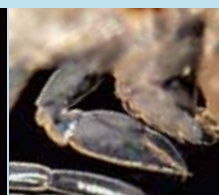


図4. 第1, 2胸肢

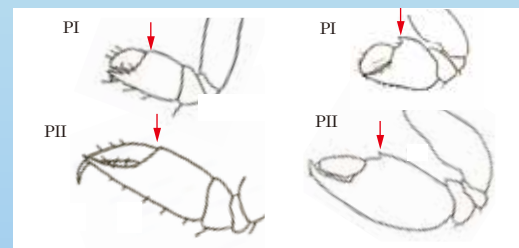


図4. アワセトガリズキンウミノミ(左)とオオトガリズキンウミノミ(右)の第1, 2胸肢腕節の前端遠位角(矢印)の比較。PI:第1胸肢、PII:第2胸肢。